

平成30年度 学校自己評価表 (計画段階 **実施段階**)

福岡県立朝倉高等学校長 印

[全日制]

| 学校運営計画 (4月) | | | | 評価(3月) | | | |
|---|---|--|-------------------------------------|----------|--|---|---|
| 学校運営方針 | | 校訓「聡明・自立・敬愛」を拠り所に、世界的教養人として、国家・社会の発展に寄与する人材を育成する。 | | A | | | |
| 昨年度の成果と課題 | | 本年度重点目標 | 具体的目標 | | | | |
| 「聡明・自立・敬愛」の校訓のもと、本校独自の「桃李プロジェクト」を掲げ、生徒の豊かな人間性育成と確かな学力を身につけさせることに取り組んできた。予定されていた学校行事や部活動だけでなく、九州北部豪雨被災地域へのボランティア活動等によっても地域貢献への思いや人への思いやりの心を深めることになった。一方、確かな学力の習得については、まだまだ十分とは言えず、キャリア教育を充実させるとともに、ICT教育機器を活用した授業改善に積極的に取り組み、アクティブラーニングがすべての授業において実施されるようにすることが今後の課題である。 | 1 人としての資質の向上を基礎とした教育の更なる充実・発展 | ア 「桃李プロジェクト」改善のための検討を行い、同プロジェクトの進化を図る イ 個々の教育活動のPDCAサイクル及び本校教育全体を俯瞰したカリキュラム・マネジメントにより効果的な教育実践を図る | | | | | |
| | 2 「知識・技能」の習得とともに「思考力・判断力・表現力」を高め、「主体性・協働性」を育成する学習指導 | ア ICT機器を活用し、「主体的、対話的で深い学びの実現」をめざした授業改善を推進する イ 高大接続改革に対応した学習指導を行う | | | | | |
| | 3 生涯にわたる志を育み、その実現を目指すキャリア教育の実践 | ア 夢と希望を持って主体的に進路を選択できる力を育成するとともに、希望進路実現のために必要な資質・能力を高める イ 東大などの難関大学進学をはじめ多様な進路希望に応じた計画的・継続的・組織的な指導体制を確立する | | | | | |
| | 4 規律と責任を重んじ、自主性や主体性を涵養する生徒指導 | ア 基本的生活習慣の確立とともに公共マナー等の指導を徹底する イ 生徒会活動、部活動、学校行事などあらゆる機会をととして生徒の自己指導能力を高めるとともに自主性・主体性・チャレンジ精神を培う | | | | | |
| | 5 本年度創立110周年を迎える。これを機にこれまでの本校教育の評価・点検を行い、組織的計画的に教育の質の向上を図る | | | | | | |
| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価(3月) | 次年度の主な課題 | | | |
| 教務 | 授業の質の向上と指導方法の改善 | DIY等のガイダンス機能拡充とキャリア教育の充実 | B | B | 新入生に対する中学校の学習の学び直しを積極的に行い、高校の学習にスムーズに移行できるようにする。また、ICT機器を活用し、新たな学びの構築を継続して行う。 大学入学共通テストを見据え、1・2年生の授業・評価の在り方を検討し、授業改善を行う。 平成31年度入学生から実施する「総合的な探究の時間」が効果的に実施されるように十分に検討する。 | | |
| | | 教師の「発問力」の向上と生徒の「聞く力・質問力」を向上させる授業研究と「応用力」を育成する授業展開の推進 | B | | | | |
| | | 高い学習課題に対し、主体的・協働的に取り組み、その結果や過程を評価するアクティブ・ラーニングの推進 | B | | | | |
| | | ICTを活用した授業の推進 | A | | | | |
| | | 授業アンケートや授業の相互参観を有効活用した授業改善の推進 <お互いによい点を学び合い高め合う教師集団づくり> | A | | | | |
| | 評価方法の研究 | 観点別評価を取り入れた年間指導計画の作成 | B | | | B | |
| | | 各教科における評価規準と評価基準の作成およびその評価 | C | | | | |
| | | 思考力・判断力及び表現力を問う考査問題の作成 | B | | | | |
| | 高大接続改革と次期学習指導要領にむけた研究の充実 | 6クラス体制でのコース編成の在り方の検討 | B | | | B | |
| | | 大学入学共通テスト試行調査の問題の分析 | B | | | | |
| | | 次期学習指導要領の実施に向けたカリキュラム・マネジメント | B | | | | |
| | | 学年・教科・分掌の連携強化 | B | | | | |
| 桃李プロジェクトの推進と地域・中学校との連携の強化 | 高大接続改革の趣旨に即した総学の構築と充実 | B | B | | | | |
| | 郷土、社会との関わりを深める内容の充実と深化 | B | | | | | |
| | 学校説明会等への積極的な参加と内容の充実 | B | | | | | |
| 教務 | 学校業務の円滑な実現を目指し、輝かしい歴史と伝統を有する学校として高いプレゼンスを維持できる学校教育活動の充実を推進する。 | 年間・月別行事予定を提示し、教育活動の円滑化に寄与する。 | A | A | ・より円滑な学校行事の遂行 ・より積極的なマスコミへの広報活動 ・小郡市への広報活動の強化 ・PTA関係行事の見直し及び変革 ・ICT関係機器の一層の安定化 | | |
| | | 創立記念式典等の各種行事や奨学金関係の早めの立案・周知を心がけ、関係業務の円滑な実施を目指す。 | A | | | | |
| | | 広報紙制作やホームページ更新、中学校訪問、メディアへの案内を軸に広報体制を充実させ、受験生や保護者から積極的に「選ばれる学校」となることを目指す。 | B | | | | |
| | PTA、同窓会、後援会との連携を深め、地域からより信頼される学校となることを目指す。 | 広報紙である「朝高ニュース」のより充実した構成を実現し、広報活動の効果を高める。 | B | | | A | |
| | | PRすべき各種行事や部活動等のマスコミへの積極的な情報提供。 | B | | | | |
| | | 年間4回の中学校訪問の内容を検討しながら、本校のPR及び情報交換を行う。 | A | | | | |
| | 総務広報 | 進路相談事業における学校紹介の工夫や学校案内の充実。 | 進路相談事業における学校紹介の工夫や学校案内の充実。 | | | B | A |
| | | | PTA役員会、各種委員会等の連絡調整及び円滑な実施を目指す。 | | | A | |
| | | | 創立110周年記念事業に向けて同窓会事務局との連絡を充実させる。 | | | A | |
| | | 無理なく継続できる学友区懇談会の在り方を検討していく。 | 無理なく継続できる学友区懇談会の在り方を検討していく。 | | | B | |
| | | | その他、校内ICT関係機器のトラブル等に迅速に対応し、安全維持を図る。 | | | A | |
| | | | ICTを活用・AL推進のための校内研修の実施 | | | A | |
| 研修 | 主体的・対話的で深い学びの創造 | 公開授業・実践発表会の開催 | A | A | 自殺予防・特別支援に関する職員研修会の実施 主体的・対話的で深い学びの深化・発展 | | |
| | | 年2回・全クラスでの授業アンケートの実施 | A | | | | |
| | 学校課題解決のための職員研修会を7回実施 | 救急救命法の講習会を体育祭前に実施 | A | | | | |
| | | 特別支援教育に関する評価法の研修を実施 | B | | | | |
| | 職員・生徒の校外研修への参加促進 | 朝礼等を活用した研修情報の伝達 | A | | | A | |
| | | 研修紀要による研修成果の報告・還元 | A | | | | |
| 人権教育・主権者教育・教育実習の充実 | 個別の人権課題を踏まえた人権教育を2回実施 | A | A | A | LGBTに関する生徒・職員研修会の実施 地域と連携した模擬投票の実施 | | |
| | 関係機関と連携した主権者教育を3回実施 | A | | | | | |
| | 教育実習生への事前指導(教科・マナー)を徹底 | A | | | | | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 (3月) | 次年度の主な課題 | | |
|--|----------------------------------|---|---|---|--|--|
| 生徒育成 | 生徒育成 | 基本的な生活習慣の育成とマナーの向上 | 挨拶、言葉遣い、荷物の持ち帰り等の基本的な生活習慣の身についた生徒の育成を目指す。 | A | <p>・基本的な生活習慣やマナーを向上させるには継続して指導していく必要がある。次年度も地域に信頼される学校であるために引き続き指導していきたい。</p> <p>・生徒会活動は、活性化してきていると考えているが、生徒の主体性の育成のためにも更なる活性化に向けた工夫を行って行きたい。</p> <p>・バイク通学者の事故は減少し、自転車事故等も大きな事故は起きていない。しかしながら、高校生による自転車事故等の報道は多くある。今後も講演会等とおして交通安全に関する意識の向上を図ってゆきたい。</p> <p>・SNS関連の事件等が全国で数多発生している。これらの事件は身近でも起こりえる事を生徒に理解させ、危機管理意識の向上を図ってゆきたい。</p> | |
| | | | 着装等常に細部まで心の行き届く生徒の育成を目指す。 | A | | |
| | | | 近隣の地域住民の方々との更なる信頼と協力を得られるような生徒の育成を目指す。 | A | | |
| | | | ネット上のマナーの育成を目指す。 | A | | |
| | | | いじめを許さない雰囲気づくりおよび、いじめの早期発見・早期対応に努める。 | A | | |
| | | 生徒会活動および部活動の活性化 | 生徒数が減少していく中ではあるが生徒会等の活動を活性化し、校内だけでなく地域の活性化も目指す。 | A | | |
| | | | 生徒数が減少していく中で、部活動の精選を行い、生徒の意欲を高めつつ地域にも情報を発信し校内のみならず地域の活性化も目指す。 | B | | |
| | | | 部活動をととした規範意識の向上を目指す。 | A | | |
| | | | 交通安全意識の向上 | A | | |
| | 交通安全意識の向上 | 生徒会交通局の活動を活性化し本校を取り巻く交通状況の確認を行い全校生徒の意識の向上を目指す。 | A | | | |
| | | 駐輪時の確実な施錠、自転車・バイク通学者の交通安全への意識の向上を目指す。 | A | | | |
| | | 交通安全に関する講話やホームルーム活動等を活用し、生徒へ継続的に働きかける。 | A | | | |
| | 生徒自身の危機管理に対する意識の向上 | バイク通学者については、外部のバイク講習会を受講させて安全確保に努める。 | A | | | |
| | | ホームルーム活動や講話等とおして、生徒の危機管理に対する意識の向上を図る。 | A | | | |
| | | 警察など関係諸機関との連携を充実させ、生徒の危機管理に関する情報を適切に伝える。 | A | | | |
| | 保健 | 心身共にたくましく生きる能力の育成 | 長期休業中前の注意喚起体制を見直し、事件・事故の未然防止をより強化する。 | A | | <p>・本校の実態に合わせた健康情報を保健局の生徒を中心に主体的に考えさせる。</p> <p>・今年度にも実施した清掃強化週間や巡回等の成果を継続しながら、マナーの向上も含めて新たな取り組みを行い、清掃を徹底する。</p> <p>・教職員に対して、専門の先生によるカウンセリング等の研修会を実施する。</p> |
| | | | 健康診断の実施、その結果に基づく、個別の事後措置・指導を徹底する。 | B | | |
| | | | 心・性の健康相談の実施を増やし、積極的に専門的な指導・助言を受けさせる。 | B | | |
| 清掃活動の活性化と公共マナーの向上 | | 保健だよりを毎月発行し、健康管理についての情報の提供と健康に関する関心を高めさせる。 | B | | | |
| | | 厚生局委員会を活性化し、生徒の清掃に対する意識を向上させ、隅々まで行き届いた清掃活動を行う。 | A | | | |
| | | トイレ等の利用マナーの向上を啓発する。また、学校施設・用具等の適切な使用を促し公共マナーの向上を図る。 | B | | | |
| 生徒支援の充実 | | 関係機関やスクールカウンセラーとの連携を充実し、学年会、教育相談・いじめ防止対策委員会を通して生徒の情報を共有し、教職員が連携して生徒を支援する。 | A | | | |
| | | 情報交換会を実施し、全教職員が共通認識のもと個に応じた教育活動を行う。 | A | | | |
| | | 進路指導委員会(教科担当者会議)を開き、指導の方向性を確認する。 | A | | | |
| 進路指導 | 最終学年での国公立大現役合格者数90名を目標とした指導体制の確立 | 過年度生のデータを検証・活用し、進路指導、教科指導、担任指導を通して高い目標に向かって努力する生徒を育成する。 | A | <p>・次年度も引き続き、生徒の志望動向を確認し、教科・学年担当と指導の方向性について共通理解をとり、希望進路の達成を図る。</p> <p>・希望進路の達成に必要な学力の伸長を図るため、課外授業・朝高セミナーを効果的に実施する。</p> <p>・高大接続システム改革、大学入学共通テストの情報収集および情報提供を積極的に行う。</p> | | |
| | | 課外授業、朝高セミナー、ハイレベル講座を実施し生徒の学習意欲と学力を向上させる。 | B | | | |
| | | 小論文、面接指導を体系化する。 | B | | | |
| | | 生徒の興味関心と関連・派生させた学問及び職業研究を企画・実施する。 | A | | | |
| | キャリア教育の充実 | 時期、内容ともに効果的な進路講演会を実施する。 | A | | | |
| | | 大学別説明会、オープンキャンパスの参加を奨励する。 | A | | | |
| | | ふれあい看護体験などの職業体験参加の機会を設ける。 | A | | | |
| | 進路情報の発信及び進学関係資料の充実 | 「進路ニュース」を発行(年2回)し、進路情報を提供する。 | B | | | |
| | | 「進路の手引き」の内容を充実させ、進学・就職指導に有効活用する。 | A | | | |
| | | 職員対象の学校説明会、入試説明会等の情報共有を図る。 | B | | | |
| | 読書活動の充実 | 高大接続システム改革に係る情報を収集・発信する。 | B | | | |
| | | 朝の10分読書の活用とクラス読書会の充実を図る。 | A | | | |
| 図書館オリエンテーションや広報活動等により、図書館利用を促す。 | | A | | | | |
| 生徒・職員の購入希望図書について選書検討を行い、蔵書の充実を図る。 | | A | | | | |
| 図書館カウンター当番、「図書だより」の発行、クラス読書会の運営等とおして生徒図書館委員の活動を活性化させる。 | | A | | | | |
| 小論文指導の内容充実を図る。 | A | | | | | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 (3月) | | 次年度の主な課題 | |
|------------------------------------|---|---|-----------|--|----------|--|
| 第一学年 | 基本的生活習慣の確立 | 時間厳守や挨拶の励行を徹底し、規律ある生活態度を身に付けさせる。 | B | B | A | 社会人として必要とされるマナー(時間・挨拶・服装)の定着を図る。 |
| | | 自ら考え積極的に行動できる態度を育成する。 | B | | | |
| | | 他者に対して配慮のできる人材を育てる。 | B | | | |
| | | 家庭との連携を密にし、皆勤者70%を目指す。 | B | | | |
| | 校訓「聡明・自立・敬愛」を体現できる生徒を育成するための土台作り | 「心」の育成を第一とし、失敗を恐れず困難に立ち向かう精神力、失敗してもそこから再び立ち上がる強い心を持つ生徒の育成を図る。 | B | A | | 家庭学習の定着を図り、授業の予習・復習を確実に行わせ、学力の向上を図る。また、課題学習や小論文学習を通じ、理論的思考力や読解力の定着を図る。自分たちで活動環境を作り、主体的に活動できるよう指導しリーダーとなる人材の育成に努める。 |
| | | キャリア教育を充実させ進路意識の高揚を図るとともに、幅広い職業観を身に付けさせる。 | A | | | |
| | | 理論的思考力・読解力等が身に付くよう考えさせながら学習に取り組み習慣を身に付けさせる。 | A | | | |
| | | 予習・授業・復習のサイクルを確立させる。 | B | | | |
| | | 部活動への入部を奨励する。 | B | | | |
| | | 様々な学校行事等を通して、学校に対する帰属意識を高め、リーダーとなる人材を育成する。 | A | | | |
| 多様化する生徒に対応できる教員集団の形成 | 教員間で生徒(担任会で)の情報を共有し、保護者との連携を深め適切な生徒指導を行う。 | A | A | 生徒一人一人に対応できるよう、情報の共有を図りながら、学年全体で取り組んでいく。 | | |
| | 二者面談(担任・生徒)をこまめに行い、生徒の多様なニーズを十分に把握し指導に役立てる。 | A | | | | |
| 第二学年 | 基本的生活習慣の確立 | 挨拶を徹底し、感謝の気持ちを養成する。 | A | B | A | 最上級学年としての自覚を持たせ、あらゆる面において、リーダーシップを発揮できるよう指導をする。 |
| | | 掃除を徹底し、「工夫する力」「気づく力」を養成する。 | A | | | |
| | | 時間厳守を徹底し、5分前行動を身につけさせる。 | B | | | |
| | | 朝高生としての自覚を持たせ、端正な制服・言葉遣いを指導する。 | B | | | |
| | | 家庭との連携をはかり、年間出席率最低99%を目指す。 | B | | | |
| | 校訓「聡明」を重点に適応指導の徹底 | 国公立大学80名、難関大学10名を2年後の目標として指導する。 | A | A | | 3カ年間の集大成として、目標を達成すべく進路指導や学習指導を綿密に行う。早期に第一志望校を決めさせ、受験への体制作りを行わせる。各科目で模試の分析をこまめに行い、学力アップに努める。 |
| | | 進研模試で国英数全国偏差値平均55をキープする。 | B | | | |
| | | スタディサポートの結果を検討し、4月中に二者面談を実施する。 | A | | | |
| | | 各学期に教科面談を実施する。 | A | | | |
| | | 課外授業出席率99%を目標とする。 | B | | | |
| | | 家庭学習時間目標を3時間とし、学習時間調査を実施する。 | A | | | |
| | | 朝課外からSHR間の20分の有効活用を図る。(基礎力養成等) | A | | | |
| | | 長期休暇中に上位層に対する特別講座を実施する。 | A | | | |
| | | 進研模試の分析会を行い、それをうけ中間層対策を実施する。 | A | | | |
| | | 定期考査前に下位層の補充指導を実施する。 | A | | | |
| | HR活動や総合的な学習の時間に、小論文指導を行う。 | A | | | | |
| | チームワークによる指導体制の確立 | 学年集会、学校行事、HR活動を生徒が企画運営できるようにする。 | B | A | | からたち祭や体育祭等の学校行事を通して、生徒の自主自立の精神を涵養する。教員間で常に連携をはかり、より効果的な生徒指導を行う。 |
| | | 情報交換を密に行い、正副担任協働による生徒指導を行う。 | A | | | |
| | | 担任・副担任の仕事を明確化し、特定の先生に仕事が偏らないようにする。 | A | | | |
| 教科担当(国数英)会議を定期的に関き、課題のバランスを図る。 | | A | | | | |
| 第三学年 | 校訓「聡明・自立・敬愛」を体現する生徒の育成 | 生徒の知的好奇心を刺激し、学習意欲を高める授業を行い、知性を育てる。 | B | B | B | 体育祭を始めとする各行事への取り組みを通して、3年生としての自覚とリーダーシップを培った。一方で、挨拶の声の小ささ等に見られるように覇気に欠ける面もあった。行事の時だけでなく日頃からの指導を粘り強く続けていく必要がある。 |
| | | 最高学年としての自覚を持たせ、学校行事等でリーダーシップを発揮するよう、学年あるいはクラス単位で声かけや指導を行う。 | A | | | |
| | | 卒業後、社会人として通用する良識ある行動がとれるよう、高校生活の全ての場面で適切な指導や声かけを意識的に行う。 | B | | | |
| | 第一進路希望の実現支援 | 一人一人が周囲の人々に配慮し、互いに敬い、感謝の念を持てるような環境を実現できるよう、日常の指導を行う。 | B | | | |
| | | 国公立大学90名以上、九州大学レベル以上の難関大学合格10名以上を目標に、進路指導を行う。 | B | | | |
| | | 安易に第一希望を断念せず、最後まで粘り強く高い希望を持ち続けることをサポートするような声かけや、進路指導上の工夫を行う。 | B | | | |
| | 共通認識に立って生徒をサポートできる協力体制の構築 | 最新の進路情報を迅速、的確に提供していき、安心して受験に備えることができるような環境を整える。 | B | | | |
| | | 担任会の情報を確実に学年スタッフと共有するよう留意する。 | B | B | | 年々保健室やスクールカウンセラーとの連携が重要になりつつある。悩みを抱えた生徒に担任だけで対処するのではなく、担任は保護者と保健室及び専門家をつなぐ橋渡しを担う必要がある。 |
| | | 保健室及び必要に応じてスクールカウンセラーと協力し合い、問題を抱えた生徒のフォローを早めに行う体制を作る。 | A | | | |
| 保護者との連携を密に取り、信頼関係を構築した上で生徒の指導にあたる。 | B | | | | | |